

編集後記

本号では、巻頭に入試随想として、井出源四郎千葉大学長から、昭和61年10月末から11月にかけてドイツの学長会議に出席した際の話について、「ドイツ連邦共和国との交流 ―特に大学入試の問題について―」と題して御執筆いただきました。

また、論説・展望として、丸井文男愛知教育大学長に「国公立大学の入学者選抜方法の多様化の必要性和現況について」を御執筆いただくとともに、当センター中島教授の『各国の大学入試 ―「志願者の何を評価するのか」を中心として―』を掲載いたしました。

報告では、当センター岩坪助教授が、在外研究員として昭和60年10月から昭和61年7月にかけて英国内で研究した成果を、「試験をめぐる英国内の調査・研究について」と題して掲載しました。

事例紹介では、昭和62年度の大学入学者選抜方法の多様化のなかで、特別の選抜方法を実施する高知医科大学の推薦入学、北海道大学の帰国子女特別選抜の事例を、また、ユニークな入試を実施する神戸大学経済学部及び経営学部の入学者選抜方法、横浜市立大学商学部における事例をそれぞれ紹介していただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析(世界史)、(生物)」を紹介しました。また、当センターの野村教授他から「昭和61年度共通第1次学力試験問題の内容分析」、岩田助手から「学部系統別にみた受験者の地理的選択の範囲」をそれぞれ公表いたしました。

本号の発刊に当たり、御多忙の中を寄稿いただきました、俵、木下、野尻、原、廣實、安田の諸先生に厚くお礼申し上げます。